

子どもと女性の健康相談室

80



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター特任准教授
齊藤 修氏

子どもの呼吸器感染症

特に猛威を振るうウイルスにRSウイルス(RSV)があります。4〜6日間の潜伏期間の後、発熱、鼻詰まり・鼻汁から授乳不良となります。続いて約3分の1の乳児は2〜3日後、せきが出たり多呼吸となったりし、重度になると胸・腹部がへこみ(陥没呼吸)、うなるような呼吸(不機嫌な泣き声と間違うこともあります)が見られるようになります。細気管支炎に至ります。症状が重度であれば生命に関わり、小児集中治療室(PICU)での呼吸補助ケアが必要となります。

さて子ども、特に乳幼

児の呼吸器感染症はなぜ重篤になるのでしょうか。それは呼吸に関わる構造物や酸素の必要量いづれもが成人と比べて大きく異なるからです。前者の一つには胸郭の柔らかさがあります。ヒ

ことになります。しかし乳幼児が細気管支炎を患うといくら頑張っても息を吸おうとしても(陰圧を作ろうとしても)、痛んだ肺は十分に膨らんでくれません。そのため残った陰圧は、肺を膨らませ

すなわちほんの少しの鼻詰まりでも苦しくてまともに息が吸えなくなります。特に新生児では、呼吸中枢の未熟さと相まってこの呼吸苦が続き、呼吸が停止してしまうことすらあります。

先に示したRSVなどによる細気管支炎は、国の報告によると乳児2〜3%に入院を必要とするそうです。生涯免の獲得ができないこのウイルスは、繰り返し両親

成人と異なる症状も

トが呼吸をするには横隔膜を収縮させ(腹部へ押し下げる)、肋間(ろっかん)筋を収縮(胸郭を拡張)させることで硬い胸郭内に陰圧を作り、結果空気が肺へ流れ込み、膨らませて陰圧を打ち消します。これが息を吸う

切れずに乳幼児の柔らかい胸郭をへこませてしまいます。これでは炎症で膨らみにくくなって肺に溜まった痰(たん)は一層残存し、より膨らみにくさを増しやがて人工呼吸器まで必要な肺炎へと悪化してしまいます。

また生後半年までの乳児は鼻呼吸が主体で上手に口呼吸ができません。元の成人に比べ子どもの呼吸数は大変速いですが(新生児30、成人12回/分)、その主な理由に酸素必要量の違いがあります。肺胞数・面積ともに発達途上にあるにもかかわらず、新生児の体重当たりの酸素必要量は成人の2倍もあるのです。

こうした解剖学、生理学的な特徴が、子どもの年長の兄弟にただの水を垂らす「風邪をもらしますが、生まれたばかりの新生児、乳児にPICUが必要なほど重篤な呼吸障害をもたす場合があります。新型コロナウイルスの流行からかわらず、手指衛生

子どもの呼吸器感染症

また生後半年までの乳児は鼻呼吸が主体で上手に口呼吸ができません。

元の成人に比べ子どもの呼吸数は大変速いですが(新生児30、成人12回/分)、その主な理由に酸素必要量の違いがあります。肺胞数・面積ともに発達途上にあるにもかかわらず、新生児の体重当たりの酸素必要量は成人の2倍もあるのです。

こうした解剖学、生理学的な特徴が、子どもの年長の兄弟にただの水を垂らす「風邪をもらしますが、生まれたばかりの新生児、乳児にPICUが必要なほど重篤な呼吸障害をもたす場合があります。新型コロナウイルスの流行からかわらず、手指衛生

次回12月26日掲載